

## ブラジルの政治経済と日本の ODA

布目稔生

互いに「地球上で最も遠い国」とされる日本とブラジルの国交は 1895 年に開始された。それから数えて 2015 年は両国の外交樹立 120 周年の記念すべき年であった。

ブラジルは、世界第 5 位の面積・人口をかかえ、世界第 7 位の経済規模を誇る。一次産品の輸出で成立していた経済は、最近の目覚ましい経済発展から国際的地位を高め、同時に豊富な地下資源、世界最大の食糧増産余力から両国の関係強化は極めて重要である。

本報告は 2 部構成（第 1 部：ブラジルの戦後政治経済史、第 2 部：日本の ODA 供与）で議論を進める。まず第 1 部は、ブラジルの戦後をポピュリズムの時代（1946～1964 年）、長期軍政の時代（1964～1985 年）、民主主義の復活（1985～現在）に区分し、政治経済の歴史を概観する。

それを受けて、第 2 部では日本からの ODA の供与状況を円借款と贈与（無償資金協力、技術協力）に分けて振り返る。2015 年初頭に閣議決定された「開発協力大綱」には、軍への災害時に限り ODA を供与するという規定があるが、順守されるかは疑問である。それでもブラジルは、いまだインフラが整備されていないため、引き続き円借款が供与されよう。また贈与では、日本の援助機関の JICA 設立の契機となり、1979 年から 22 年におよび実施されたセラード農業開発協力にも触れ、日本の ODA の展開とブラジルの経済発展が密接な関係にあった点を説明する。